



日本植物病理学会ニュース 第55号

(2011年8月)

【名誉会員・永年会員の略歴とお話】

名誉会員 久能 均



1940年東京都生まれ。1963年宮城県石巻高校卒業。1964年京都大学農学部農林生物学科入学。同大学大学院修士・博士課程に進学後、1967年米国南イリノイ大学植物学科 Ph. D. 課程入学。1970年 Ph. D. 取得後、三重大学農学部助教授に採用された。1972年京都大学より農学博士を取得。1988年教授昇格。学部改組に伴い生物資源学部所属となる。2004年三重大学停年退職し、三重大学名誉教授となる。同年4月より2009年8月まで(株)赤塚植物園生物機能開発研究所顧問・所長を歴任し、2009年10月より岡山大学大学院自然科学研究科客員教授として、鉄酸化細菌が形成する鉄、リン、ケイ素含有複合構造の新規機能性材料創成プロジェクトに参画している。1977-78年米国コーネル大学客員准教授、1996年ブラジルサンパウロ大学客員教授を勤める。学会活動：日本植物病理学会評議員、編集委員長、関西部会長、副会長・会長、アジア植物病理学会副会長などを務め、第5~10回日米科学セミナーにオルガナイザーなどとして関与した。受賞：日本植物病理学会学術奨励賞、同学会賞、米国植物病理学会フェロー、タバガイギーリサーチフェロー、日本農学会賞、読売農学会賞「病原糸状菌感染と宿主反応の細胞学的研究～細胞表層における相互認識～」など。受賞対象は、ムギ類うどんこ病菌を中心素材として、1969年から約35年間一貫して細胞学手法で研究した成果の集大成である。1990年代後半から植物内生放線菌を利用したバイオコントロールの研究も併せて行った。

農学の基盤は農業現場にある。農学の一翼を担う植物病理学でも現場にフィードバックできる研究活動でありたい。農学の産業基盤となっている農林水産業が衰退すると、

農学部不要論、再編・縮小論が政治の舞台で取りざたされると予想される。植物病理学会や農学部を有する大学が、減速しつつある我が国の農業と向き合う術を真剣に考えるべき時ではなからうか？

この度、名誉会員にご推挙頂いたことは、身に余る光栄と心から感謝申し上げる次第である。終始一貫ご支援いただいた恩師、学会関係者、研究室の卒業生ならびに国内外の共同研究者に改めて厚く御礼申しあげたい。

永年会員 飯嶋 勉



昭和10年12月14日、群馬県生まれ。昭和34年東京教育大学農学部農学科卒業。同年8月から東京都農業試験場病理昆虫研究室で野菜、花き等の病害防除試験に従事。環境部長、経営部長を経て、平成8年3月、場長で定年退職。同年4月から(社)農林水産技術情報協会で月刊誌の編集やセミナー等の開催を担当。平成13年4月から5年間、明治大学農学部米山勝美教授のもとで植物病理学専攻生の研究を指導。この間、東京農工大学、東京農業大学、(独)農業者大学校で植物病理学を講義(非常勤)。学会関係では評議員(4期)、病名委員、教育プログラム推進委員、その他、農水省のIPMや病害虫推進会議等の外部評価委員を担当。東京都農業試験場では昭和41年に練馬区等で異常多発したキャベツ萎黄病対策が思い出深い。本病については米国における抵抗性品種(YR)による成功例を参考に、当初から目標をYR品種に置いて試験を進めた。幸い、種苗界では各社競って抵抗性育種を開始し、3年目以降に実用可能なYR品種が続々と市販され、本病対策は予定試験期間より1年早く完了した。当時、東京都では「試験研究の成果を金額で示せ」という宿題があったが、5年間の予

算額 100 万円で年 1 億円の効果をあげ、かつ予定期間より 1 年早く完了と報告し、行政当局を喜ばせた（後年、元長野県野菜花き試験場長塚田元尚氏は当時の YR 品種の経済効果を全国で年 60 億円と試算）。昭和 46 年からは三鷹市等で被害甚大であったトマト半身萎凋病の試験を開始し、ネコブセンチュウ・萎凋病・半身萎凋病抵抗性の育種素材‘NFVR’と同実用品種‘東農ふじみ’を育成した。抵抗性品種で防除できる病気はこれを使えばよいと思っている。なお、本研究は我が国におけるパーティシリウム病の先駆的成果と評価され、昭和 57 年に北海道大学から学位を、昭和 63 年に日本植物病理学会賞をいただいた。学会報は楽しみに目を通している。地方農試の出身者としては、得られた研究成果が現場でどう活用できるか、夢がかきたえられるような記述を期待したい。

永年会員 石島 嶺



昭和 10 年 5 月熊本県で出生、同 29 年東京農工大学農学部農学科入学、植物病理学を専攻し本学会に加入した。33 年 4 月農林省に採用、蚕糸試験場病理部桑病研究室に配属、34 年同九州支場病理研究室に配転された。45 年九州大学農学部植物病理研究室に留学、46 年 3 月から 1 年間科学技術庁在外研究員として、米国農務省農業研究所で corn stunt spiroplasma などについて研究、53 年 3 月から 2 年間、JICA「タイ国養蚕開発協力計画」の蚕桑病理専門家として派遣された。58 年九州農業試験場環境第一部病害第 3 研究室長に配転、露地野菜の土壌病害について研究した。61 年同場企画調整部に配転、平成 3 年野菜・茶業試験場環境部長に昇任、平成 8 年 3 月に退官した。平成 7～8 年には、JICA「パラグアイ小農野菜生産普及強化計画」の事前調査団長、同長期調査員、海外農業協力専門家技術実践研修員として 3 度パ国等に派遣された。9 年 4 月から 5 年間、同計画のチームリーダーとしてパ国国立農業研究所に派遣された。

桑萎縮病は古くから繭生産を阻む大要因であったが、病因には桑の過度の摘葉・伐採による生理的違和説が主流をなし、肥培管理法の改善などの防除策では十分な効果が得られなかった。蚕糸試験場でこの防除策の解明を担当、まず病因にウイルスを想定、桑園生息のヒシモンヨコバイを病株飼育後非休眠性の桑に放飼すると、個体接種でも発病することを認めた。さらに本種の分布状況調査中に発見した新属新種のヒシモンモドキも媒介昆虫と確認した。両種

の病原獲得や伝搬条件、桑園における保毒実態、個体生態や発生消長、栽培桑における伝搬時期と潜伏期間などを解明、ヒシモンヨコバイが本病流行に重要な役割をなすことを確認、蚕飼育への影響を避けつつ本種の駆除を主体とする体系防除法を提案、この実用防除効果が確認された。昭和 46 年、成果をまとめた「桑萎縮病の伝搬と防除に関する研究」で農学博士（九州大学）の学位が授与された。

本病病原は後に *Phytoplasma* とされ、画期的な新知見が多数得られたが、さらなる研究進展を期待する。長くご指導・ご支援をいただいた学会各位に深謝する。

永年会員 菊本敏雄



1935 年 6 月 13 日愛媛県に生まれる。1954 年愛媛県立八幡浜高校卒業後、大阪に出て泉田商店、植田電機（株）に勤務。1959 年愛媛大学農学部農学科卒業。1961 年 7 月名古屋大学大学院農学研究科博士課程を中途退学。同年 7 月東北大学助手農学研究所に採用。1981 年 6 月助教授に昇任。1988 年 4 月東北大学農学

研究所の廃止転換により遺伝生態研究センターに配置換。1999 年 3 月東北大学停年退官。同年 9 月株式会社関東農産技術顧問。現在に至る。この間、1959 年 9 月 26 日の伊勢湾台風直後、農場のトラックで安城から名古屋の被災地救援に参加。名古屋大学では松井千秋先生の指導でガラスナイフを作り、超薄切片法の習得。平井篤造先生のお世話により東北大学に奉職。農学研究所では坂本正幸先生の第 3 部門病害研究室に所属。日本一の「仙台白菜」に軟腐病が激発した 1949 年の出荷量は最盛期の 2 割弱に減少。富樫二郎氏と共に先任の津山博之、工藤祐基氏らのハクサイ軟腐病に関する研究テーマを引き継ぎ、その進展に努めた。1971 年に「そ菜類軟腐病細菌の生態的研究」で農学博士（東北大学）を取得。北海道大学、名古屋大学の大学院農学研究科の非常勤講師を勤めた。2000 年 4 月「ハクサイ軟腐病の発生生態と生物防除に関する研究」で日本植物病理学会賞を受賞した。学会関係では編集幹事、評議員、土壌伝染病談話会幹事、植物細菌病談話会幹事、バイオコントロール研究会幹事、1989 年土壌微生物研究会副会長。東北大学農学研究所に於いて発行の「土壌微生物通信」第 1 号（1962 年）から 67 号（1986 年）の終刊まで 25 年間、編集責任者を務めた。1965 年、西ヶ原の農技研で開催の第 1 回植物細菌病談話会に出席した際、岡部徳夫先生に相談し

ご意見を伺いました。先生いわく「菊本くん、畑の中に真実があるんだよ」。以来、この言葉を胸に研究をつづけて参りました。定年後も関東農産において、これまでの知恵と経験を活かし醗酵資材を用いた土壌病害の生物防除に取り組んでおります。微力ですが、少しでも農家のお役にたつことを願いつつ楽しい日々を過ごしています。今後もよろしく願いいたします。ありがとうございました。

永年会員 富樫 二郎



昭和10年(1935年)11月10日山形県生まれ。同36年3月山形大学農学部卒業、同年7月高橋喜夫教授のお薦めにより東北大学農学研究所(現大学院生命科学研究所)教務員、坂本正幸教授のご指導の下で野菜類軟腐病に関する研究を始めた。同46年3月東北大学より農学博士の学位を授与され、同年4月山形大学農学部助教授。後藤岩三郎教授の下で野菜類軟腐病に関する研究を続行した。同62年4月同大学教授。平成2年4月岩手大学大学院連合農学研究科教授併任、同13年3月定年退官した。この間、学生部長補佐、図書館長、農場長等を歴任し、昭和53年9月第8回国際植物病理学会議(ドイツ、ミュンヘン)、第4回植物病原細菌に関する国際会議(フランス、アンジュー)などに出席した。また、昭和58年9月文部省在外研究員として米国ウイソコンシン大学A. Kelman教授の下で軟腐病菌の系統に関する調査、研究を行った。平成13年4月同大名誉教授。その後山形大学教養教育(総合科目「土の微生物とその利用」担当)、島根大学生物資源学部、仙台育英学園で各々非常勤講師を勤めた。

学会では評議員、編集委員、東北部会長、東北部会創立30周年記念誌編集委員長等を務め、平成13年9月第20回植物細菌病談話会を鶴岡で開催した。平成8年3月日本植物病理学会賞を受賞した。

研究では軟腐病菌の検出・定量法にファージ法を導入したり、抗生物質耐性やファージ感受性で標識した系統を供試するなどして土壌中での腐生相や宿主主体での寄生相にわたる軟腐病菌の動態を詳細に追跡し、軟腐病の伝染環の解明等に努めた。

昭和36年7月日本植物病理学会に入会以来、今日まで長い間ご指導、ご厚誼を戴きました諸先生、会員の皆様方に心より謝意を申し上げますとともに学会の一層のご発展をお祈り致します。

【会員の動静】

1. 人事

(1) 大学関係

上田一郎	H23. 4	北海道大学 理事・副学長
高橋英樹	H23. 4	東北大学 大学院農学研究科植物病理学分野 教授
前田孚憲	H23. 3	[退職] 日本大学 生物資源科学部 植物病理学研究室 教授
古谷綾子	H22.11	[採用] 茨城大学 遺伝子実験施設 助教
仲下英雄	H23. 3	[採用] 東京農業大学 応用生物科学部 生物制御化学研究室 教授
藤田佳克	H23. 4	[採用] 日本大学 生物資源科学部 植物病理学研究室 教授
佐野義孝	H23. 4	[採用] 新潟大学 農学部植物病理学分野 准教授
鍵和田 聡	H23. 4	法政大学 生命科学部 植物医科学専修 専任講師
清水将文	H23. 4	岐阜大学応用生物科学部 植物病理学研究室 准教授
瀧川雄一	H22.10	静岡大学 創造科学技術大学院 教授
根津 修	H23. 6	[採用] 静岡大学 農学部共生バイオサイエンス学科(植物病理学) 特任助教
Yong Zhang	H23. 6	東京大学大学院医学研究科 博士研究員
五味剣二	H23. 4	香川大学 農学部 准教授
竹本大吾	H23. 4	名古屋大学大学院 生命農学研究科 植物病理学研究室 准教授

(2) 農水省関連独法関係

藤田佳克	H23. 4	[退職] 中央農研 研究管理監
花田 薫	H23. 3	[退職] 中央農研 生物的病害制御研究チーム長
佐々木厚子	H23. 4	[採用] 果樹研 品種育成・病害虫研究領域 生物的病害防除プロジェクトチーム(PT) 主研(果樹研 果樹病害研究チーム任期付研)

大西 純	H23. 4	[採用]野茶研 野菜病害虫・品質研究領域 生物的病害防除 PT 主研 (野茶研 野菜 IPM 研究チーム任期付研)			害研究チーム長)
飯田祐一郎	H23. 4	[採用] 野茶 野菜病害虫・品質研究領域 生物的病害防除 PT 研究員 (野茶研 野菜 IPM 研究チーム任期付研)	早野由里子	H23. 4	中央農研 病害虫研究領域 水稲病害抵抗性 PT プロジェクトリーダー/侵入病害虫リスク評価 PT 上席研 (病害抵抗性研究チーム主研)
染谷信孝	H23. 4	[採用] 北農研 畑作研究領域 寒地畑野菜輪作 PT / 生物的病害防除 PT / バレイショ品種開発・利用 PT 主研 (北農研 北海道畑輪作研究チーム任期付研)	小泉信三	H23. 4	中央農研 病害虫研究領域 水稲病害抵抗性 PT 上席研 (病害抵抗性研究チーム長)
中島 隆	H23. 1	内閣府 食品安全委員会事務局次長 (九州農研 赤かび病研究チーム長)	仲川晃生	H23. 4	中央農研 病害虫研究領域 有機農業体系 PT 上席研 (生物的病害制御研究チーム/大豆生産安定研究チーム上席研)
田中 穰	H22.10	農水省 消費・安全局 消費・安全政策課課長補佐 (中央農研 昆虫等媒介病害研究チーム主研)	加藤雅康	H23. 4	中央農研 病害虫研究領域 大豆安定多収栽培 PT 上席研 (大豆生産安定研究チーム上席研)
奥田 充	H23. 4	農水省 農林水産技術会議事務局 技術政策課課長補佐 (九沖農研 暖地施設野菜花き研究チーム主研)	荒井治喜	H23. 4	中央農研 水田利用研究領域 重粘地水田輪作 PT 上席研 (病害抵抗性研究チーム上席研)
田平 剛	H23. 4	農水省 神戸植防 大阪支所次席同定官 (中央農研病害虫研究同定法研究チーム主研)	笹谷孝英	H23. 4	中央農研 病害虫研究領域 生物的病害防除 PT / 侵入病害虫リスク評価 PT 主研 (昆虫等媒介病害研究チーム主研)
山内智史	H23. 4	農研機構 総合企画調整部 研究戦略チーム主研 (野茶研 野菜 IPM 研究チーム主研)	中保一浩	H23. 4	中央農研 病害虫研究領域 生物的病害防除 PT 主研 (生物的病害制御研究チーム主研)
本多健一郎	H23. 4	中央農研 病害虫研究領域 領域長 (野茶研 野菜 IPM 研究チーム長)	大藤泰雄	H23. 4	中央農研 病害虫研究領域 侵入病害虫リスク評価 PT 主研 (国際農研 熱帯・島嶼研究拠点生産環境分野プロジェクトリーダー)
安田伸子	H23. 4	中央農研 企画管理部業務推進室 企画チーム長 (病害抵抗性研究チーム主研)	鈴木文彦	H23. 4	中央農研 病害虫研究領域 水稲病害抵抗性 PT 主研 (九州農研 赤かび病研究チーム主研)
橋本知義	H23. 4	中央農研 土壤肥料研究領域 土壤生物機能評価 PT プロジェクトリーダー (九沖研 企画管理部 研究調整役)	一木珠樹	H23. 4	中央農研 病害虫研究領域 侵入病害虫リスク評価 PT 主研 (病害虫検出同定法研究チーム/兼昆虫等媒介病害研究チーム主研)
津田新哉	H23. 4	中央農研 病害虫研究領域 生物的病害防除 PT プロジェクトリーダー (昆虫等媒介病	田澤純子	H23. 4	中央農研 病害虫研究領域 有機農業体系 PT 主研 (大豆生産安定研究チーム主研)

井上康宏	H23. 4	中央農研 病害虫研究領域 生物的病害防除 PT 主研 (生物的病害制御研究チーム主研)			グリーンング病研究チーム長)
野口雅子	H23. 4	中央農研 病害虫研究領域 水稲病害抵抗性 PT 主研 (病害抵抗性研究チーム主研)	中畝良二	H23. 4	果樹研 品種育成・病害虫研究領域 生物的病害防除 PT サブリーダー (果樹病害研究チーム主研)
高橋真実	H23. 4	中央農研 水田利用研究領域 重粘地水田輪作 PT 主研 (病害抵抗性研究チーム主研)	伊藤 伝	H23. 4	果樹研 リンゴ研究領域 生物的病害防除 PT / 有機農業体系 PT サブリーダー (果樹病害研究チーム上席研)
芦澤武人	H23. 4	中央農研 水田利用研究領域 重粘地水田輪作 PT / 水稲病害抵抗性 PT 主研 (病害抵抗性研究チーム / 北陸大規模水田作研究チーム主研)	島根孝典	H23. 4	果樹研 品種育成・病害虫研究領域 生物的病害防除 PT 上席研 (果樹病害研究チーム長)
久保田健嗣	H23. 4	中央農研 病害虫研究領域 生物的病害防除 PT 研究員 (昆虫等媒介病害研究チーム研究員)	須崎浩一	H23. 4	果樹研 ブドウ・カキ研究領域 生物的病害防除 PT 上席研 (果樹病害研究チーム上席研)
上松 寛	H23. 4	中央農研 病害虫研究領域 侵入病害虫リスク評価 PT 研究員 (農水省 横浜植防 業務部)	宮田伸一	H23. 4	果樹研 品種育成・病害虫研究領域 侵入病害虫リスク評価 PT 主研 (カンキツグリーンング病研究チーム主研)
越智 直	H23. 4	中央農研 病害虫研究領域 大豆安定多収栽培 PT 研究員 (病害虫検出同定法研究チーム / 大豆生産安定研究チーム研究員)	中村 仁	H23. 4	果樹研 品種育成・病害虫研究領域 生物的病害防除 PT 主研 (果樹病害研究チーム主研)
富高保弘	H23. 4	中央農研 病害虫研究領域 生物的病害防除 PT 任期付研 (昆虫等媒介病害研究チーム任期付研)	富村健太	H23. 4	果樹研 カンキツ研究領域 侵入病害虫リスク評価 PT 主研 (カンキツグリーンング病研究チーム主研)
川部眞登	H23. 4	中央農研 病害虫研究領域 生物的病害防除 PT 任期付研 (病害虫検出同定法研究チーム任期付研)	足立嘉彦	H23. 4	果樹研 カンキツ研究領域 生物的病害防除 PT 主研 (東北農研 省農薬リンゴ研究チーム主研)
中野正明	H23. 4	果樹研 カンキツ研究領域 領域長 (研究管理監 (安芸津担当))	兼松聡子	H23. 4	果樹研 リンゴ研究領域 生物的病害防除 PT 主研 (果樹病害研究チーム主研)
塩谷 浩	H23. 4	果樹研 カンキツ研究調整監 (カンキツ調整監)	伊藤隆男	H23. 4	果樹研 ブドウ・カキ研究領域 生物的病害防除 PT 主研 (果樹病害研究チーム主研)
岩波 徹	H23. 4	果樹研 品種育成・病害虫研究領域 侵入病害虫リスク評価 PT サブリーダー (カンキツ	藤川貴史	H23. 4	果樹研 品種育成・病害虫研究領域 侵入病害虫リスク評価 PT 研究員 (カンキツグリーンング病研究チーム研究員)
			古屋典子	H23. 4	果樹研 カンキツ研究領域

		生物的病害防除 PT 任期付研 (果樹病害研究チーム任期付研)	山口博隆	H23. 4	野茶研 野菜育種・ゲノム研究領域 野菜ゲノム利用技術 PT 主研 (野菜ゲノム研究チーム主研)
八重樫 元	H23. 4	果樹研 リンゴ研究領域 生物的病害防除 PT 任期付研 (果樹病害研究チーム任期付研)	杉山充啓	H23. 4	野茶研 野菜育種・ゲノム研究領域 果菜類品種開発 PT 主研 (野菜育種研究チーム主研)
築尾嘉章	H23. 4	花き研 研究支援チーム長兼企画管理室 (企画管理室長)	篠原 信	H23. 4	野茶研 野菜病害虫・品質研究領域 生物的病害防除 PT 主研 (野菜 IPM 研究チーム主研)
佐藤 衛	H23. 4	花き研 花き研究領域 花き効率生産 PT 主研 (生育開花調節研究チーム主研)	窪田昌春	H23. 4	野茶研 野菜生産技術研究領域 生物的病害防除 PT / 有機農業体系 PT 主研 (野菜 IPM 研究チーム主研)
松下陽介	H23. 4	花き研 花き研究領域 花き効率生産 PT / 生物的病害防除 PT 研究員 (生育開花調節研究チーム研究員)	山田憲吾	H23. 4	野茶研 茶業研究領域 茶 PT / 生物的病害防除 PT 主研 (茶 IPM 研究チーム主研)
岸本久太郎	H23. 4	花き研 花き研究領域 品質評価保持向上 PT / 新形質花き創出 PT 任期付研 (花き品質解析研究チーム任期付研)	吉田克志	H23. 4	野茶研 茶業研究領域 茶 PT 主研 (茶 IPM 研究チーム主研)
白川 隆	H23. 4	野茶研 企画管理部 研究調整役 (野菜 IPM 研究チーム上席研)	月星隆雄	H23. 4	畜草研 飼料作物研究領域 大規模飼料生産 PT / 飼料作物品種開発 PT / 飼料等安全性確保技術 PT 上席研 (畜産温暖化研究チーム上席研)
吹野伸子	H23. 4	野茶研 企画管理部 業務推進室 企画チーム長 ([併任解除] 野菜育種研究チーム)	岡部郁子	H23. 4	畜草研 飼料作物研究領域 かび毒リスク低減 PT / 飼料作物品種開発 PT 主研 (飼料作環境権九チーム主研)
若生忠幸	H23. 4	野茶研 野菜育種・ゲノム研究領域 露地野菜品種開発 PT 上席研 (野菜育種研究チーム上席研)	菅原幸哉	H23. 4	畜草研 飼料作物研究領域 飼料作物品種開発 PT / 大規模飼料生産 PT 主研 (飼料作環境研究チーム主研)
寺見文宏	H23. 4	野茶研 野菜病害虫・品質研究領域 生物的病害防除 PT 上席研 (野茶研 野菜 IPM 研究チーム上席研)	清 多佳子	H23. 4	畜草研 飼料作物研究領域 飼料作物品種開発 PT 研究員 (飼料作物育種工学研究チーム研究員)
畔上耕児	H23. 4	野茶研 野菜生産技術研究領域 生物的病害防除 PT / 有機農業体系 PT 上席研 (中央農研 病害虫検出同定法研究チーム長)	眞岡哲夫	H23. 4	北農研 生産環境研究領域 生物的病害防除 PT サブリーダー / パレイショ品種開発・利用 PT 上席研 (パレイショ栽培技術研究チーム上席研)
園田亮一	H23. 4	野茶研 茶業研究領域 生物的病害防除 PT 上席研 (茶 IPM 研究チーム長)			
布目 司	H23. 4	野茶研 野菜育種・ゲノム研究領域 野菜ゲノム利用技術 PT 主研 (野菜ゲノム研究チー			

- | | | | | | |
|-------|--------|--|------|--------|---|
| 佐山 充 | H23. 4 | 北農研 生産環境研究領域
生物的病害防除上席研（北海道畑輪作研究チーム上席研） | | | (病害抵抗性研究東北サブチーム長 兼東北飼料イネ研究チーム上席研) |
| 奈良部 孝 | H23. 4 | 北農研 生産環境研究領域
生物的病害防除 PT / バレイシヨ品種開発・利用 PT 上席研（バレイシヨ栽培技術研究チーム 兼企画管理部上席研） | 門田育生 | H23. 4 | 東北農研 環境保全型農業研究領域 環境保全型畑作 PT 上席研（寒冷地野菜花き研究チーム / 中央農研・生物的植物病害制御研究チーム上席研） |
| 加藤秀憲 | H23. 4 | 北農研 水田作研究領域 リンゴ PT 主研（寒冷地域特産研究チーム主研） | 山崎浩道 | H23. 4 | 東北農研 畑作園芸研究領域 イチゴ等野菜周年生産 PT / 夏秋期野菜生産 PT 主研（夏秋どりイチゴ研究チーム主研） |
| 岡 紀邦 | H23. 4 | 北農研 生産環境研究領域
根圏機能利用 PT 主研（根圏域研究チーム 兼中央農研・生物的植物病害制御研究チーム主研） | 田中 治 | H23. 4 | 東北農研 畜産飼料作研究領域 寒冷地飼料生産 PT 主研（東北飼料イネ研究チーム主研） |
| 中山尊登 | H23. 4 | 北農研 生産環境研究領域
生物的病害防除 PT / バレイシヨ品種開発・利用 PT 主研（バレイシヨ栽培技術研究チーム主研） | 櫻井民人 | H23. 4 | 東北農研 生産環境研究領域
生物的病害防除 PT / 有機農業体系 PT / 天敵利用型害虫制御 PT 主研（斑点米カメムシ研究東北サブチーム / 中央農研・昆虫等媒介病害研究チーム主研） |
| 大木健広 | H23. 4 | 北農研 生産環境研究領域
生物的病害防除 PT 主研（中央農研昆虫等媒介病害研究チーム 兼生物的病害制御研究チーム主研） | 小林 隆 | H23. 4 | 東北農研 生産環境研究領域
有機農業体系 PT / 気象災害リスク低減 PT 主研（やませ気象変動研究チーム主研） |
| 池田成志 | H23. 4 | 北農研 畑作研究領域 有機農業体系 PT 主研（根圏域研究チーム主研） | 山本 亮 | H23. 4 | 東北農研 生産環境研究領域 高能率水田輪作 PT 主研（大豆生理研究東北サブチーム主研） |
| 西尾善太 | H23. 4 | 北農研 畑作研究領域 小麦品種開発・利用 PT 主研（パン用小麦研究チーム主研） | 善林 薫 | H23. 4 | 東北農研 水田作研究領域
水稲病害抵抗性 PT 主研（病害抵抗性研究東北サブチーム主研） |
| 岡崎和之 | H23. 4 | 北農研 畑作研究領域 寒地畑野菜輪作 PT 主研（寒冷地バイオマス研究チーム主研） | 鬼頭英樹 | H23. 4 | 東北農研 水田作研究領域
水稲病害抵抗性 PT 主研（病害抵抗性研究東北サブチーム主研） |
| 増中 章 | H23. 4 | 北農研 畑作研究領域 生物的病害防除 PT / バレイシヨ品種開発・利用 PT 任期付研（根圏域研究チーム任期付研） | 永坂 厚 | H23. 4 | 東北農研 環境保全型農業研究領域 環境保全型畑作 PT 主研（寒冷地野菜花き研究チーム主研） |
| 御子柴義郎 | H23. 4 | 東北農研 生産環境研究領域
領域長 兼研究支援センター長（研究管理監） | 今崎伊織 | H23. 4 | 東北農研 環境保全型農業研 |
| 中島敏彦 | H23. 4 | 東北農研 水田作研究領域
高能率水田輪作 PT 上席研 | | | |

		究領域 環境保全型畑作 PT ／有機農業体系 PT 主研 (中 中央農研 病害虫検出同定法研 究チーム主研)			地施設野菜花き研究チーム上 席研)
竹原利明	H23. 4	近中四農研 水田作研究領域 環境保全型野菜生産 PT サブ リーダー／有機農業体系 PT 上席研 (生物的病害制御研究 チーム主研)	宮坂 篤	H23. 4	九沖農研 生産環境研究領域 かび毒リスク低減 PT / 暖地 病害虫管理 PT 上席研 (赤か び病研究チーム上席研)
吉岡藤治	H23. 4	近中四農研 作物機構開発研 究領域 大麦品種開発利用 PT サブリーダー (作物研 大麦研究関東サブチーム長)	酒井淳一	H23. 4	九沖農研 生産環境研究領域 暖地病害虫管理 PT 主研 (暖地 施設野菜花き研究チーム主研)
宮川久義	H23. 4	近中四農研 水田作研究領域 生物的病害防除 PT 上席研 (生 物的病害制御研究チーム上席 研)	井上博喜	H23. 4	九沖農研 生産環境研究領域 かび毒リスク低減 PT / 暖地 病害虫管理 PT 主研 (中山間 耕畜連携・水田輪作研究チー ム / レタスビッグベイン研究 チーム主研)
石川浩一	H23. 4	近中四農研 作物機構開発研 究領域 環境保全型野菜生産 PT 上席研 (レタスビッグベ イン研究チーム長)	吉田めぐみ	H23. 4	九沖農研 生産環境研究領域 かび毒リスク低減 PT 主研 (赤 かび病研究チーム主研)
大崎秀樹	H23. 4	近中四農研 水田作研究領域 環境保全型野菜生産 PT 主研 (レタスビッグベイン研究チー ム / 野茶研・野菜 IPM 研究 チーム主研)	川上 颯	H23. 4	九沖農研 生産環境研究領域 かび毒リスク低減 PT / 暖地 病害虫管理 PT 主研 (中央農研 赤かび病研究チーム主研)
関口博之	H23. 4	近中四農研 水田作研究領域 環境保全型野菜生産 PT 主研 (北農研 根圏域研究チーム 主研)	上田重文	H23. 4	九沖農研 水田作・園芸研究 領域 イチゴ等野菜周年栽培 PT 主研 (暖地施設野菜花き 研究チーム主研)
伊藤陽子	H23. 4	近中四農研 環境保全型野菜 研究領域 環境保全型野菜生 産 PT 主研 (環境保全型野菜 研究チーム主研)	高山智光	H23. 4	九沖農研 水田作・園芸研究 領域 イチゴ等野菜周年栽培 PT 主研 (イチゴ周年生産研 究チーム主研)
野見山孝司	H23. 4	近中四農研 作物機構開発研 究領域 環境保全型野菜生産 PT 研究員 (レタスビッグベ イン研究チーム研究員)	小林 晃	H23. 4	九沖農研 畑作研究領域 カ ンショ品種開発・利用 PT 主 研 (北農研 寒冷地域特産研 究チーム主研)
平八重一之	H23. 4	九沖農研 生産環境研究領域 かび毒リスク低減 PT プロジェ クトリーダー (企画管理部 業務推進室長)	小林有紀	H23. 4	九沖農研 畑作研究領域 暖地 大規模畑輪作 主研 (バレイ ショ栽培技術研究チーム主研)
大貫正俊	H23. 4	九沖農研 生産環境研究領域 暖地病害虫管理 PT 上席研 (暖	青木孝之	H23. 4	生物資源研 遺伝資源セン ター 分類評価研究ユニット 長 (基盤研究領域 ジーンバ ンク上級研)
			石川雅之	H23. 4	生物資源研 植物科学研究領 域 植物・微生物間相互作用 研究ユニット長 (植物科学研

		究領域 植物・微生物間相互作用研究ユニット上級研			相互作用研究ユニット主研)
中島信彦	H23. 4	生物資源研 昆虫科学研究領域 昆虫微生物機能研究ユニット長 (昆虫科学研究領域 昆虫・微生物間相互作用研究ユニット上級研)	村上理都子	H23. 4	生物資源研 昆虫科学研究領域 昆虫微生物機能研究ユニット主研 (昆虫科学研究領域 昆虫・微生物間相互作用研究ユニット主研)
林 長生	H23. 4	生物資源研 遺伝子組換え研究センター 耐病性作物研究開発ユニット上級研 (植物科学研究領域 耐病性研究ユニット上級研)	加納 健	H23. 4	国際農研 食料安定生産プログラムディレクター (企画調整部企画評価室長)
南 栄一	H23. 4	生物資源研 遺伝子組換え研究センター 耐病性作物研究開発ユニット上級研 (植物科学研究領域 植物・微生物間相互作用研究ユニット長)	赤松 創	H23. 4	国際農研 生物資源・利用領域主研 (生物資源領域主研)
西澤洋子	H23. 4	生物資源研 遺伝子組換え研究センター 耐病性作物研究開発ユニット上級研 (植物科学研究領域 植物・微生物間相互作用研究ユニット上級研 兼副研究主幹)	安藤康雄	H23. 4	国際農研 生産環境・畜産領域主研 (畜産草地領域主研)
佐藤豊三	H23. 4	生物資源研 遺伝資源センター 分類評価研究ユニット上級研 (基盤研究領域 ジーンバンク上級研)	河邊邦正	H23. 4	国際農研 熱帯・島嶼研究拠点主研 (企画調整部 広報室主研)
澤田宏之	H23. 4	生物資源研 遺伝資源センター 分類評価研究ユニット上級研 (基盤研究領域 ジーンバンク上級研)	中島一雄	H23. 4	国際農研 生物資源・利用領域主研 (生物資源領域主研)
高橋 章	H23. 4	生物資源研 遺伝子組換え研究センター 耐病性作物研究開発ユニット主研 (植物科学研究領域 耐病性研究ユニット主研)	鈴木 敦	H23. 4	種苗管理センター 沖縄農場調査役/業務部品種調査専門役/品種保護対策役 (種苗管理センター 業務調整部種苗検査課種苗検査役)
富岡啓介	H23. 4	生物資源研 遺伝資源センター 分類評価研究ユニット主研 (基盤研究領域 ジーンバンク主研)	牧野 華	H23. 4	種苗管理センター 業務調整部病害検査室併任 (業務調整部栽培試験課主任調査員)
光原一郎	H23. 4	生物資源研 植物科学研究領域 植物・微生物間相互作用研究ユニット主研 (植物科学研究領域 植物・微生物間相互作用研究ユニット主研)	福田 豊	H23. 4	種苗管理センター 北海道中央農場業務部主任調査員/副品種保護対策役 (種苗生産部主任調査員 兼副品種保護対策役)
			三木信雄	H23. 4	種苗管理センター 胆振農場業務部主任調査員 (種苗生産部主任調査員)
			(3) 都道府県試験研究機関関係		
			堀田治邦	H23. 4	北海道中央農試企画調整部地域技術グループ 主査 (地域連携)
			山本晋玄	H23. 4	青森県病害虫防除所 技師
			小山内朋絵	H23. 4	(地独) 青森県産業技術センターりんご研究所病虫部 研究員
			山下一夫	H23. 4	(地独) 青森県産業技術センター野菜研究所病虫部 部長

雪田金助	H23. 4	(地独) 青森県産業技術センター農林総合研究所 企画経営監	漆原寿彦	H23. 4	群馬県農政部技術支援課普及指導室 園芸技術係
荒井茂充	H23. 4	(地独) 青森県産業技術センターりんご研究所県南果樹部長	野田 聡	H23. 4	埼玉県農林総合研究センター副所長(兼)埼玉県病害虫防除所 所長
赤坂安盛	H23. 4	岩手県 県北広域振興局農政部長	小木曾秀紀	H23. 4	長野県野菜花き試験場佐久支場 主任研究員
菅原 敬	H23. 4	山形県庄内総合支庁農業技術普及課産地研究室 主任専門研究員	藤永真史	H23. 4	長野県野菜花き試験場環境部(塩尻) 研究員
早坂 剛	H23. 4	山形県庄内総合支庁農業技術普及課 課長補佐	石山佳幸	H23. 4	長野県野菜花き試験場環境部(塩尻) 技師
佐々木泰子	H23. 4	山形県農林水産部食品安全衛生課 主査(兼)病害虫防除所業務課専門研究員	市川 健	H23. 4	静岡県経済産業部志太榛原農林事務所 地域振興課長
佐藤健治	H23. 4	山形県農林水産部 環境農業推進課 安全農作物主査(兼)生産技術課病害虫技術主査	伏見典明	H23. 4	静岡県交通基盤部農地利用課 主査
菊地繁美	H23. 4	山形県農林水産部 環境農業推進課 安全農作物専門員	万年潤哉	H23. 4	静岡県経済産業部西部農林事務所 技師
藤田剛輝	H23. 6	福島県県中農林事務所田村農業普及所	天野昭子	H23. 4	岐阜県農政部農産園芸課 技術課長補佐
梶 和彦	H23. 6	福島県農業総合センター安全農業推進部 発生予察課長	黒田克利	H23. 4	三重県農業研究所企画調整課 主幹
平子喜一	H23. 6	福島県農業総合センター安全農業推進部 部長	川上 拓	H23. 4	三重県伊賀農林商工環境事務所農政・普及室(普及2課) 技師
原澤良栄	H23. 4	新潟県十日町地域振興局農業振興部普及課 普及課長	田口裕美	H23. 4	三重県農業研究所循環機能開発研究課 研究員
三室元気	H23. 4	富山県農林水産部農産食品課 主任	片岡光信	H23. 3	[退職] 京都府食の安心・安全推進課理事
塚本昇市	H23. 4	石川県中能登農林総合事務所農業振興部農業振興課 担当課長	岡山健夫	H23. 3	[退職] 奈良県農業総合センター 所長
古河 衛	H23. 5	福井県農業試験場作物部 部長	村本和之	H23. 4	山口県農林総合技術センター 柑きつ振興センター 専門研究員
渡邊 健	H23. 4	茨城県農業総合センター農業研究所 研究調整監	重田 進	H23. 4	山口県山口農林事務所農業部 主幹
河又 仁	H23. 4	茨城県農業総合センター鹿島地帯特産指導所 副所長	幸坂有規	H23. 4	山口県柳井農林事務所農業部 技師
白石俊昌	H23. 4	群馬県農業技術センター 所長	生咲 巖	H23. 4	香川県農政水産部農業経営課 環境・植物防疫グループ 主任
酒井 宏	H23. 4	群馬県農政部技術支援課生産環境室 植物防疫係長	森 充隆	H23. 4	香川県農業試験場生産環境部 主席研究員
			楠元智子	H23. 4	愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課果樹係 主任

竹内繁治 H23. 4 高知県農業振興部環境農業推進課 環境担当チーフ
 安達理恵 H23. 4 高知県病害虫防除所 主幹
 石井貴明 H23. 4 福岡県農林水産物安全課 生産管理係
 梶谷裕二 H23. 4 福岡県経営技術支援課 専門技術指導員
 善正二郎 H23. 4 佐賀県生産振興部園芸課 主査
 小牧孝一 H23. 4 熊本県農業研究センター 生産環境研究所長
 河野伸二 H23. 4 沖縄県農林水産部病害虫防除技術センター 予察防除総括

2. 学位取得者（課程博士・論文博士）

Edmund L. Sanchez Jr. 北海道大学・農学研究院
 H22. 9 博士（農学） イネいもち病菌のレトロトランスポゾンに関する研究
 Sali Atanga Ndindeng 北海道大学・農学研究院
 H22. 9 博士（農学） イネいもち病菌の DNA 組換え修復遺伝子 *Rhm51* に関する研究
 三木慎介 H23. 3 北海道大学・農学研究院 博士（農学） イネいもち病菌の非病原性遺伝子 *AVR-Pia* のクローニング及び in planta 発現解析
 Wafai Baaj Dunia 北海道大学・農学研究院
 H23. 3 博士（農学） Studies on *Cephalosporium gramineum*, the causal fungus of Cephalosporium stripe disease of wheat
 江口直樹 H23. 3 北海道大学大学院農学院 博士（農学） ニホンナシにおける重要糸状菌病害の生態と防除に関する研究（長野県農業試験場 企画経営部）
 赫 英紅 H23. 3 岩手大学・連合農学研究科 博士（農学） リンゴ葉圏微生物群モニタリングのための真菌・細菌・ウイロイドのマクロアレイ解析

Kim Ok-Kyung 東京農業大学大学院農学研究科
 H23. 3 博士（国際農業開発学） Diversification and its impact of cucurbit-infecting viruses in Asia
 新城 亮 H23. 3 東京農工大学大学院連合農学研究科 博士（農学） マンノース結合型イネレクチン（MRL）導入形質転換体イネの創出と病害抵抗性
 稲見圭悟 H23. 3 東京農工大学大学院連合農学研究科 博士（農学） トマト萎凋病菌の病原性進化とレース特異識別技術に関する研究
 大川篤史 H23. 3 東京農工大学大学院連合農学研究科 博士（農学） キク B ウイルス RNA ゲノムの遺伝子解析
 Luqman Qurata Aini 静岡大学創造科学技術大学院
 H22. 9 博士（学術） Functional analysis of pathogenicity genes in *Xanthomonas axonopodis* pv. *citri*
 河原崎秀志 H23. 3 静岡大学創造科学技術大学院 博士（農学） *Rhizobacter dauci* に関する研究
 高垣真喜一 H23. 3 静岡大学創造科学技術大学院 博士（農学） 植物病原菌の薬剤耐性メカニズムと感受性検定法の確立
 Sarawaneeyaruk 京都大学 農学研究科
 Siriruk H22.10 博士（農学） Studies on cap-independent translation and RNA replication mechanisms of *Dianthovirus*（ダイアンソウイルスのキャップ非依存性翻訳機構と RNA 複製機構の研究）
 峯 彰 H23. 3 京都大学 農学研究科 博士（農学） Identification and molecular dissection of RNA replication complexes of *Dianthovirus*（ダイアンソウイルスの RNA

- Anurag Sunpapao H23. 3 複製複合体の同定と分子解剖
大阪府立大学・生命環境科
学研究科 博士(応用生命科学) Analysis of cyclic symptom
development in tobacco infected
with *Cucumber mosaic virus*
- Yong Zhang H23. 3 愛媛大学大学院連合農学研究
科 博士(学術) Identification
and characterization of
new regulators regulating the
hrp regulon in *Ralstonia solan-
acearum*
- 下元祥史 H23. 3 愛媛大学大学院連合農学研究
科 博士(農学) ピーマン
黒枯病菌の分子分類と黒枯病
抵抗性育種母本の開発(高知
県農業技術センター 生産環
境課)
- 矢野和孝 H23. 3 九州大学大学院生物資源環境
科学府 博士(農学) ナス
科およびショウガ科植物に発
生する青枯病の発生生態と防
除に関する研究(高知県農業
技術センター 生産環境課)

【関連国際会議開催状況】

第4回アジア植物病理学会議報告

アジア植物病理学会議(ACPP)は、2000年に中国北京で第1回が開催され、第2回はシンガポール、第3回はインドネシアで開催された。第4回は、Australasian Plant Pathology Society (APPS) との共同開催(The 4th Asian Conference on Plant Pathology Concurrent with the 18th Biennial Australasian Plant Pathology Society Conference)となった。なお、Australasiaとはオセアニアの各国を包括する。

「アジアとオセアニアのための植物病理学の新しいフロンティア」を共通テーマとして、2011年4月26日から29日の3日間、オーストラリアのダーウィンで開催された本会議は、参加者総数は約400名、口頭発表145題、ポスター発表164題を数え、15分野で発表やディスカッションが展開された。また、アメリカやヨーロッパからの演者も迎えた11題の基調講演は、アジア小農と作物保護の諸問題、途上国における植物病理の人材形成、バイオインフォマティクスと植物病理、フザリウム属菌研究の過去と現状、バイオセキュリティと微生物鑑別、グリーンングとトリス

テザ、中国におけるユーカリの病害…など、多様で充実したものであった。

ダーウィンは赤道に近い北端の地。エクスカージョンでは、ヘリコニアなどを出荷する熱帯花卉農園、マンゴー農園などを訪問したが、省力化してスケールで勝負する農業という印象であった。オーストラリアの熱帯農業ならではのマンゴーなどの病害、重要検疫害虫クィーンズランドミバエの防除用トラップなどは興味深いものであった。

2学会の合同開催とはいえ、共通言語は英語であり、また、運営上、その所属による区別はまったくない。会長挨拶や学会の表彰行事なども単一のプログラムの中に組み込まれスムーズに進んでいった。留学などによる往来の多い現在、出身国や所属学会にこだわるのはあまり意味が無いのかもしれない。一方、日本で学位を取得した元留学生が、母国で活躍している様子も嬉しいものであった。しかし、日本からの参加者は10名前後と少なく、例えば中国の5分の1に過ぎなかった。そのため、残念ながら日本の植物病理学の高い研究水準を十分に発信できなかったとはいえない。また、留学生や博士研究員にとって魅力ある学びの地としてアピールできたかどうか、不安もある。第5回ACPPは2014年にタイで開催されることとなっている。学生や院生、若い研究者の方々が積極的に参加して、若手からの国際化推進に貢献されることを願っている。(夏秋啓子)

【関連学会情報】

第26回報農会シンポジウム『植物保護ハイビジョンー2011』のご案内ー昆虫や種苗がまん延させる病害の脅威ー

趣旨：国際的な種子の流通、育苗施設の大規模化による流通の広域化、気候変動による病害虫の生息域の変化などにより、種子や苗による病害虫の侵入・伝染・まん延のリスクが増大している。種苗類の病害虫は、圃場における伝染源となり未発生地域に新たな病害虫をもたらす危険性を孕んでいる。最近問題になっている種苗の流通及び圃場における病害虫発生の現状、防除対策を討議し、今後の病害虫管理のあり方を展望する。

主催：財団法人 報農会

協賛：日本応用動物昆虫学会、日本植物病理学会、日本農薬学会

日時：平成23年9月28日(水) 10:15~15:00

場所：「北とびあ」つつじホール

(東京都北区王子1-11-1)

TEL 03-5390-1100(会場への連絡は出来ません)

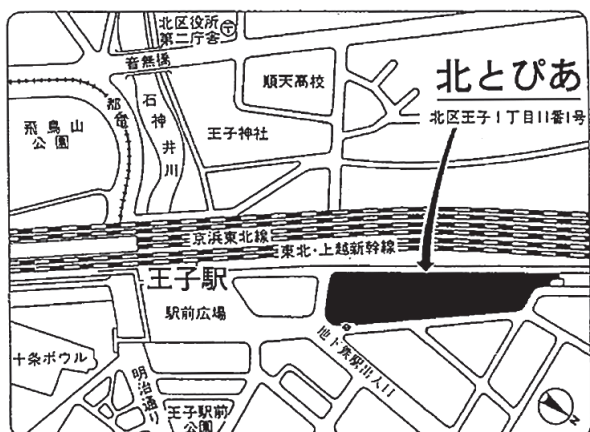
JR 京浜東北線・地下鉄南北線：王子駅下車

徒歩2分（下図参照）

- 開 会：10:15～10:30 挨拶 理事長 上路雅子
 講 演：10:30～11:10 種苗検疫の現状と課題
 農林水産省横浜植物防疫所
 古澤幹士
- 11:10～11:50 種苗生産・流通における病害虫
 管理
 (株) サカタのタネ 加来久敏
- 13:00～13:30 ウメ輪紋ウイルスの発生と防除
 法政大学生命科学部 西尾 健
- 13:30～14:00 カンキツグリーンング病の発生
 と防除
 (独) 農業・食品産業技術総合研
 究機構果樹研究所 岩波 徹
- 14:00～14:30 ウリ類退緑黄化病の発生と防除
 熊本県農業研究センター
 行徳 裕
- 14:30～15:00 ウリ類果実汚斑細菌病の特徴と
 防除体系
 (独) 農業・食品産業技術総合
 研究機構野菜茶業研究所
 白川 隆

参加費：一般 2,000円 学生 1,000円

申込み：参加をご希望の方は下記連絡先までEメール
 またはFAXで所属・連絡先と氏名をお知らせ
 下さい。当日、参加費と引き替えにテキストを
 お渡し致します。



【新刊紹介】



山下修一著「植物ウイルス」
 — 病原ウイルスと性状 —
 A5版 312ページ 2011年
 悠書館出版
 定価 12,600円(税込み)

ウイルスは人類に残された最後の敵とも称され、動植物から微生物まですべての生物に存在する。ウイルスは生細胞にのみ寄生する無生物であるが、その分類は生物と同様に階級分類が行われる。ウイルスは生殖により増殖しないので種の概念が適用できず、その分類については長年議論されてきたが、現在ではゲノムレベルでの解析が進み、全生物のウイルスが統一的に検討されている。著者はイネいもち病菌など菌類ウイルスについてもその黎明期から探索され、造詣が深い。植物ウイルスについても、本邦産ウイルスの2/3以上を自らの手で探究され、また多くの新規・未詳ウイルスを発見された。また、細菌、菌類、線虫、フシダニ、その他などについても病原学の見識が高い。植物ウイルスは現在、世界中で87群(属)約900種、本邦で73群(属)約300種知られている。通常、ヒトのウイルスは苦痛や生命を脅かすことで直接的、家畜や作物などでは経済性をもって間接的に人類に被害をもたらす。本書は東京大学で土居養二先生に師事した山下氏が同大学で講義された「ウイルス学」「植物ウイルス学」を中心に病原学的に取り纏められたもので、I、II編から成る。I編は総論で、広くウイルス学全般にわたり、ウイルス学の歴史、ウイルスの発見・定義、病徴、検診、分類などについて紹介され、教養としても有益である。II編は本邦に存在する259種の植物ウイルスについて具体的に分類学的、病原学的見知から病徴、ウイルス粒子、ゲノム、伝染などについて記載されている。著者は一貫して野外より採集した植物をまず電顕でDN法によりウイルス粒子を捉え、さらに細胞内所在を電顕で調査された。このため、筆者の手にかかると、電顕と病徴で大多数のウイルスが同定される。本書では主要なウイルス病については病徴を口絵に挙げ、本文中にウイルス粒子の電顕写真(ネガティブ染色、細胞内所在)を多く示されている。著者のウイルス探索の基礎は電顕に置かれ、これには電顕が随時、任意に使用できなくてはならない。氏は東大農学部電顕室の管理責任者を長く務められ、これが研究推進に有効だったと述べておられる。このように山下氏は電顕学、植物学についても高い見識を有され、電

頭を十分に駆使して本書を執筆された。さらに、師事された土居先生の写真も適宜導入され、独自の内容・様式を示す。類似書はなく、植物ウイルスについては座右の書となる。

本書は、従来の教科書、事典などとは異なり、本邦の性状の解明された主な植物病原ウイルス全てを取り上げ、紹介している。また、裸の核酸 (RNA) が病原のウイロイドについても記述されている。

本書の主な内容は次の通りである。

〈目次〉

I 編 総論

1. 植物のウイルス病
2. ウイルスの検診・同定
3. ウイルス粒子の性状
4. ウイルスの遺伝
5. ウイルスの感染・増殖と防除
6. ウイルスの分類

II 編 病原ウイルス

1. 2本鎖 (逆転写, RT) DNA ウイルス
2. 1本鎖 DNA ウイルス
3. 2本鎖 RNA ウイルス
4. 1本鎖 RNA ウイルス
 - A. 逆転写 (RT) ウイルス
 - B. マイナス (-) 鎖ウイルス
 - C. プラス (+) 鎖ウイルス
5. ウイロイド

(文責：夏秋知英)

【学会ニュース編集委員コーナー】

本会ニュースは身近な関連情報を気軽に交換することを趣旨として発行されております。会員の各種出版物のご紹介、書評、会員の動静、学会運営に対するご意見、会員の関連学会における受賞、プロジェクトの紹介などの情報をお寄せいただきたくお願いします。

投稿宛先：〒114-0015 東京都北区中里 2-28-10

日本植物防疫協会ビル内

学会ニュース編集委員会

FAX：03-5980-0282 (学会事務局とともに移転しました)

または下記学会ニュース編集委員へ：

加来久敏、畔上耕児、濱本 宏、植草秀敏、宮田伸一
各委員宛

編集後記

学会ニュース第55号をお届けします。前号は大震災の影響でボリュームが極端に減ってしまいましたが、本号ではいろいろな記事が満載です。最初が今年度選ばれた名誉会員及び永年会員方々のご経歴とメッセージです。新しく選ばれた名誉会員・久能先生と永年会員4名の方々のこれまでの学会への多大なご貢献に対し心から感謝いたします。皆さんのご経歴を眺めますと国内外での幅広いご活躍と、戦後の植物病理学の隆盛期の様子がありありと目に浮かんでまいります。次に会員の動静ですが、今春も多数の方々の異動がありました。新しい職場に入られた方、異動された方、大いなるご発展を祈念しております。また、退職された皆様長い間大変お疲れ様でした。学会への貢献につきましても厚くお礼申し上げます。さらに、学位を取得された方々、おめでとうございます。これからの研究のさらなる発展と次なるステップの飛躍を期待いたします。本号ではそれから、学会活動報告と関連学会情報が続きます。活動報告では学会の国際化の一環として位置づけでもあるAPPSとの共同開催でもある第4回ACPPの報告を夏秋先生より頂いておりますが、先生のコメントにありますように、今後の若手からの国際化の推進を願ってやみません。

(加来久敏)
